

【校長室便り】

No. 3 2

H30年11月16日(金) 土佐町小中学校 谷内宣夫



失敗は成功のもと!

中間テストが返ってきました。点数が思うようにとれなかった生徒の様子を見ると、投げやりになっていたり、「勉強しなかったからできなかった」と自分をごまかす言動が目につきます。

近年、子どもたちと接していて感じるがあります。

失敗したり、負けたりすることがとても苦手な子どもが

増えてきてます。「負けず嫌い」ではなく、ミスしたり間違っ

ただで極端に落ち込んだり、パニックになったり、負けたと

いうことで自分を傷つけたり、相手に攻撃的になったりと、

失敗する自分はダメだ。負ける自分が許せない。失敗しそうな

ことには関わらない。自分が勝てない相手の存在を認めよう

としない。または、失敗したことをひたすら隠そう(ごまかす)

とする。やる前からできないいいわけを考える。という子ども

の姿です。失敗体験の記憶ばかりが大きくなっている

子どもたちの多くは、これ以上失敗したくないと思っている

でしょう。何度も失敗したら「自分はダメだ」と思い込んでし

まっているのでしょう。今、皆さんは小・中学生です。6

～15歳です。これから先の長い人生において失敗や負ける

こと、できないこと、わからないこと、うまくいかないこと等、

たくさん経験するのは、**うまくいかないことの方が多**

人生です。そんな時、「自分はダメだ」という

ネガティブな思考に陥ることなく、

ポジティブな発想で前向きに、人生を切り開いていける

「生きる力」を持って欲しいし、そう思って行動できる

子どもを育てることが、私たち教師や

保護者(大人)の務めではないでしょうか。

学習を通して、遊びを通して、あらゆることで失敗しても

やり直せばよいことや、頑張ってもうまくいかないこともあること、

失敗からたくさんのことが学べること等を

伝えていかなければならないと思っています。

そのために、大人が「失敗はチャンス」であるととらえ、行動し

ている姿を示していただきたいと願います。たとえば、子ども

にミス指摘され、恥ずかしい気持ちに

なると同時に「怒り」がわいてくる可能性があります。

教師でも大人でも間違えることはあります。恥ずかしさか

ら、その場をやり過ぎたい気持ちもわかりますが、失敗をし

たときにどうするのかというモデルを見せることは、子どもた

ちが失敗と向き合うためにとっても大切なことだと思います。

具体的には、子どもに質問されてわからなかったときに、

「そんなことは自分で調べろ」というのでなく、「私もわから

ないから調べてみよう」と言って、辞書を引いたり、パソコン

で検索したりという姿を見せてほしいと願います。

ミスをした後の責任の取り方や、挽回の仕方を一緒に考え

てやったり、アドバイスをしてあげていただきたいのです。

わからないことは 恥ずかしいことではない
わからないことを わかったふりをしていることが
恥ずかしいことである



人生において、**過ちや間違いを消せる都合の良い「消しゴム」**

はないのです。過ちを犯してしまったときに、どう対応するのか、

でその人の価値(評判)が決まるということを語っていただき

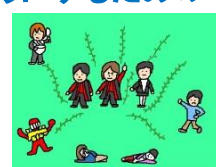
たいです。また、ミスや失敗をたくさんするのが人生です。**次**

に同じミスをしないよう気を付けるから成長する。

ミスを隠そうとするより、次にミスをしないようにするための

努力ができる人間となってほしいと、

子どもたちに伝えていただきたいです。



子どもたちに、自分が失敗をしたときどのようにふるま

ばよいのか、しっかりと伝え、考えさせることが必要です。

失敗が許されるのが、思春期にある今の子どもたちです。大人

が、こんな失敗をして周りの人に迷惑をかけたことがあり、

その後どのような対応をしたのかという話(大人の失敗話)

を子どもたちに語っていただきたい。

是非、子どもにとって大人がモデル(よい見本)になって

「失敗から学ぶ」姿勢を示していただきたい。

保護者の皆さんよろしくお願いたします。



失敗はチャンスの時!!